

1 佐藤公園



若松の石炭王・佐藤慶太郎が昭和9年に邸宅を旧若松市に寄付したもので、桜の名所であり、花見の季節には多くの市民が訪れる。慶太郎は大正10年に東京府美術展覧会賞として個人で100万円(今の約33億円)寄付したことで有名。

2 白山神社



豊崎白山(石川原)に対する山岳信仰に由来する神社。磐多羅村の鎮守として寛永6年に藤木村から勧請し、享保2年に築在地へ遷した。社室として伊万里焼陶(市指定有形民俗文化財)が伝えられている。

3 栗木の森



北は北海道のエゾマツから南は福岡県のツツジ、沖縄県のリュウキュウマツまで、全国47都道府県の県木が日本列島の形を模した土壇に植えられている。変化に富んだ園路を巡って各地のシンボルツリーを見ることが出来る。

4 河童封じの地蔵尊



河童をこよなく愛した火野葦平の小説「石と釘」に登場する河童封じの地蔵尊が祀られている。高塔山山頂の風船台下にあり、石仏の群中には、いたずら好きで河童を封じ込めたと伝えられる大きな釘が打ち込まれている。

5 展望台



みんなの公園です。約束を守り、楽しく利用しましょう。

花や木を大切にしましょう。 ゴミは持ち帰りましょう。 犬のフンは、飼い主が持ち帰らしましょう。

6 河童封じの地蔵尊



高さ124mの高塔山の山頂に作られたとても眺めの良い展望台。眼下には若松の街並みが見え、若戸大橋や洞海湾、道倉山、響灘の工場など、風力発電などが一望できる。特にここから見る夜景は「河童の囃した石炭」と称されるように見る人すべてを感動させる。

7 火野葦平文学碑



若松の誇る芥川賞作家・火野葦平の文学碑。碑文には自作の詩「雲に誘われし青雲(はいのう)に捧ぐ一輪の梅の香雪」が刻まれている。毎年、毎月1月24日頃の日曜日に、碑前「葦平忌」が行われ、冬空に葦平作詞の「五平太ばやし」などがこだまする。

8 芝生広場



高塔山山頂直下に整備された広場。ふかふかの芝生が一帯に铺られ、昔話は東洋風をほじめとする来場者がのんびりくつろげるとともに、イベント開催時には大きな賑わいを見せている。

9 野島の森



市街地近郊にありながら自然が多く残る高塔山はメジロ、ホオジロ、カワラヒワ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイスなど様々な鳥が生息する野島の宝庫。「野島の森」はその名実がゆっくりと羽を休ませることのできる場所として整備された。

10 万葉植物園



万葉集にもなった草木50種類を集めて開設。現在67種類でそれぞれに代表歌を書いた木札が立てられていて、歌と植物の勉強ができる。園内には数池を貫いた石段状の記念碑がある。

11 吉田磯吉銅像



吉田磯吉は、川口らた(石炭派議員)の船政から身を起し、のちに代議士となり、明治・大正・昭和の3代にわたって北九州の石炭業界に貢献した。高塔山公園を創るなど郷土の発展にも尽力し、昭和35年にこの地に銅像が建立された。

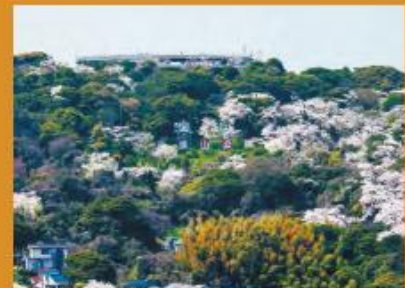
12 仏舎利塔



教団(教団)入道2,500年を記念して、インドのネール菩提(菩提)から贈られた仏舎利(教団の遺骨)を祀るため昭和31年に建立された。眼下に洞海湾が見られる場所から立ち、白く優雅な姿が特徴的である。

高塔山の魅力

若松区の中心市街地近くにある高さ124mの高塔山は若松区のシンボルともいえる山で、区民の誰からも親しまれています。中世には山城(城主は大庭頼朝守景)がありました。現在は高塔山公園として整備され、山頂展望台をはじめ、黒木の森や野外音楽堂、万葉植物園、河童封じの地蔵尊、火野葦平文学碑など様々な施設や史跡があり、山頂付近の芝生広場は満足やファミリーの遊び場として親しまれています。山全体は雑木林の緑と四季の花々に恵まれ、桜、ツツジ、あじさいと年中楽しませてくれます。特にあじさいは県内有数の名所で、毎年6月には「あじさい祭り」が開催され、多くの人々で賑わいます。展望台からは若戸大橋、洞海湾、響灘をはじめ、関門橋まで一望でき、日本夜景遺産®に認定された夜景は特にすばらしく、ピロードに宝石をちりばめたような幻想的な美があります。



さくら、あじさいの見所

■さくらの見頃:3月~4月



■あじさいの見頃:6月

